

## O1-027

### 放課後児童支援員の事例報告にみられる作業療法士のコンサルテーション事業の影響

森川 芳彦<sup>1</sup>、吉村 学<sup>2</sup>

<sup>1</sup>専門学校川崎リハビリテーション学院、

<sup>2</sup>川崎医療福祉大学

#### 【背景】

(一社)岡山県作業療法士会が作業療法士(以下、OT)の放課後児童支援員(以下、支援員)へのコンサルテーション事業(以下、コンサル事業)を開始してから2020年度で5年目となった。佐野らは(2019)、OTのコンサル事業の有用性を、職員間の連携や子ども全体への支援の向上であると報告した。しかし、支援員の事例報告を用いてコンサル事業の効果や有用性を報告した研究は散見されない。

#### 【目的】

2018年度、備前・備中県民局公募型協働提案事業の報告書には、OTのアドバイスを受けた支援員の事例報告が掲載されている。事例報告を用いて支援員の困りごとやOTのアドバイスの傾向、支援員の保育実践を分析し、関連性について明らかにする。

#### 【方法】

報告書は38事例の事例紹介、支援員の相談事、OTの見立て、OTのアドバイス、支援員の実践と経過、結果が掲載されている。統計処理にはKH Coder 3を使用し、事例紹介以外の5項目の文字情報を解析し、頻出語の抽出、共起ネットワーク図の作成、頻出語同士の相関係数の表記を行った。倫理的配慮として所属機関の倫理委員会の承認(承認番号5190-00)を得た。報告書の使用に関しては、編纂した団体の許可を得た。

#### 【結果】

分析は項目ごとに行い、抽出されたサブグラフはすべての項目で6つであった。サブグラフの名称は抽出順に表記し、頻出語は括弧内の値とする。支援員の相談事では、1)相手の気持ちの理解しにくさ(9)、2)暴力(6)、3)思い通りにならないことによるトラブル(8)、4)注意を聞かない(6)、5)感情的になりやすい(6)、6)言葉遣いの悪さ・区切りのつかなさ(5)が抽出された。OTのアドバイスでは1)トラブルの振り返り(8)、2)ルール設定・遊びの支援(6)、3)役割の提供(7)、4)気持ちの言語化(6)、5)視覚支援(4)、6)環境設定(4)が抽出された。支援員の実践と経過ではOTのアドバイスと類似したサブグラフが抽出された。

#### 【考察】

支援員の相談事は、社会性行動、情緒の問題が多く、それらの対応に困っていると考えられた。OTのアドバイスでは、子どもへの関わり方、作業活動の提供、環境設定が多い傾向にあり、支援員の実践と経過において、OTのアドバイスと類似したサブグラフが得られたことから、支援員はOTのアドバイスを踏まえた実践が行われていることが示唆された。